

# 緑の地球

## GREEN EARTH

地球環境のための国境をこえた民衆の協力



子どもだってどんぶり飯。たくさん食べて、大きくなってね(新栄区郭家窪郷)

### Contents

会員総会のご案内 .....	P 2
夏のワーキングツアーのご案内 .....	P 2
中国の暮らしあれこれ .....	P 3
春のワーキングツアー報告 .....	P 4

2004.5

97

## 緑の地球ネットワーク 第10回会員総会のご案内

緑の地球ネットワーク会員総会も第10回をむかえます。92年以来の活動のなかでも指折りの厳しい年だった03年度を振り返り、活動継続、会員拡大への意欲を再確認しましょう。

記念講演には、日本と世界の森林を広く歩いて調査し、現在もモンゴルのフブスグル湖周辺で調査活動に取り組んでおられる吉良竜夫さんをおまねきします。豊富な経験と知識にもとづき、植林は、植物や森林の生態を考えて慎重におこなうべきと説かれる吉良先生

から、大同での緑化にとっても貴重なお話をうかがうことができるでしょう。会員の方には、追ってくわしいご案内と資料をお送りします。

### 【緑の地球ネットワーク

#### 第10回会員総会】

日時：6月19日（土）13時30分～16時30分

記念講演：13時30分～15時10分

「生態学からみた森林の再生」吉良竜夫さん（大阪市立大学名誉教授）

参加費：700円（GEN会員無料）

会員総会：15時20分～16時30分  
場所：大阪市立総合生涯学習センター第1研修室（大阪駅前第2ビル5階）  
TEL. 06-6345-5000 各線「梅田」駅、JR「大阪」駅/東西線「北新地」駅）  
懇親会：16時50分～18時30分、場所同じ。会費2,000円。GEN会員以外の方もどうぞ。参加申込は6月17日までにGEN事務所まで。

## GEN自然と親しむ会 有機農業体験

有機栽培への関心が高まっています。店頭でも「有機栽培」の表示をみかけますが、どんなふうになられているのでしょうか。NPO法人有機農業検証協会のご協力で、長年有機栽培に取り組まれている原田農園をたずねます。とれたてのトマトやキュウリも味わわせていただきます。

日時：7月24日（土）10時30分～15時ごろまで

訪問先：原田農園（大阪府豊能郡能勢町）

主催：緑の地球ネットワーク

後援：NPO法人有機農業検証協会  
持ちもの：弁当、飲みもの、タオル、帽子、汚れてもいい服装と靴

参加費：500円（保険料を含む）

定員：30名 小雨決行

集合：10時30分に原田農園ビニールハウス前

申込み：7月21日までに、緑の地球ネットワークまで。

行き方：能勢電鉄「妙見口」から阪急バス森口・今西行9時52分発、10時15分「和田」下車、徒歩5分。

## 日中水フォーラム報告

中国共産主義青年団中央と中華全国青年連合会主催の「中日民間水論壇」（日中水フォーラム）が4月20日から22日にかけて北京で開催されました。中国側は青年団幹部のほか、水利部、建設部、環境保護総局などが出席し、日本からは橋本龍太郎元総理、尾田栄章第3回世界水フォーラム事務局長をはじめ、政府関係者、研究者、NGO、企業などが出席しました。環境問題のなかでも最重要でありながら、これまでの日中協力のなかであまり目を向けられなかった水問題が、正面から取り上げられたのは画期的なことです。

全体会議の発言者が日中あわせて40人近く、分科会は「水行政」「水経済」「水文化」「水生態」の4つで報告者は50人近く、そのほかに「ユース」の集

いもありました。そこで提出された問題はあまりにも多く、1度で把握できるものではありませんが、発表されたデータからでも中国の水問題の深刻さが伝わり、水分野の協力の必要さが認識されたと思います。緑の地球ネットワークの高見事務局長は「後ろ姿の北京は砂上の楼閣？」と題する報告をし、注目されました。来秋、札幌での第2回開催をはじめ、今後も継続することが確認されています。

北京でのフォーラムに出席した日本側コースのメンバー20人ほどが、そのあと2日間、大同を訪れ、桑干河、冊田ダム、農村と都市の水使用状況などを視察し、環境林センターで1泊しました。深刻な水不足の現場をみて、収穫は少なくなかったと思います。

## 2004 夏の黄土高原ワーキングツアーご案内

今夏のツアーは、例年よりほぼ1か月遅らせてみました。現地はすっかり秋、どんな光景が見られるでしょう。

緑化協力地での、村の人たちといっしょに汗を流しての植樹作業や交流はもちろん、カササギの森や環境林センターなど、GENの活動拠点の見学など、GENのワーキングツアーならではの体験があなたを待っています。

日程：8月23日（月）～30日（月）7泊8日

費用：一般＝175,000円、学生＝165,000円（国際航空運賃、

中国国内での交通費/食費/宿泊費、GEN年会費をふくむ。旅券取得費用、空港使用料、航空保険料、自由行動時の費用はふくまない）

中国国際航空使用 関西国際空港発着 成田発着便  
利用ご希望の方は、航空運賃の差額を別途お支払いいただきます。金額はお問い合わせください。

定員：30人（先着順）

申込締切：7月16日（定員に達し次第締め切ります）

## 中国の暮らしあれこれ

宮下 利江（日本語教員・GEN会員）

昨年夏から中国山東省の高校で日本語を教えているGEN会員の宮下利江さんに、日常生活をレポートしてもらいました。“典型的な地方都市で、中国のものはなんでもあれど中国以外のものはなにもないような場所”だとか。場所は学校とちょっと特殊だけれど、大都会でも、農村でもない、“フツー”の中国の姿です。

山東省は日本に一番近い中国といわれています。気候も比較的似ていますが、移り変わりはずっと早いようです。4月はじめに桜と桃があっという間に咲いて、散りました。その頃はセーターを着ていたのに、2週間後にはもう藤の花も終わり日中は半袖でもいぐらい。急に初夏がきてしまったようです。木を植える期間も限定されているのか、4月中旬には町のあちこちで街路樹を植えているのを見かけました。

私がいる学校でも、毎日のようにあちこちが掘り起こされ、片っ端から苗木が植えられました。学校といっても、学生教員、職員があわせて6,500人ぐらいいて、寮生や教員の家族を含めて1,000人以上の人が生活していますから、ちょっとした町の規模です。飲料水用の浄水施設や給湯施設が校内に3か所あって、午前中、午後、夕方の1日3回、給水・給湯しています。夕方5時半になるとやかんやポットを持った人が校内を歩いています。学生たちは水がもらえる休み時間には、ペットボトルを持って水飲み場に集まります。

中国人はあまり水を使う習慣がないのかな、と思うほど、水を使う光景を

見ません。日本では家の外にも水道の蛇口がありますが、中国ではほとんどありません。車やバイクを洗うときもホースで水をかけているのはみたことがありません。トイレで手を洗うのもぬらす程度。トイレの水道も飲料水の蛇口も決まった時間以外はいつも律儀に止められています。

SARSの影響が、町では衛生に気をつけていることをアピールする食堂も多いんですが、その方法は、食器にビニール袋をかぶせた上にラーメンやおかずを入れるんです。ふんだんに水を使って洗うという発想がないから、皿を洗わなくても衛生的な方法として考えられたようですが、ちょっと心配。

学校の寮にはシャワーがないので、寮の学生は2週間に1度しかお風呂に入れないし、独身寮の先生たちもお風呂はめったに入らないそうです。自宅通学生も、シャワーは夏場で3日に1度、冬は週に1度。ここ山東半島では暑くなればそれなりに湿度があがって汗もかくし、乾燥しているときは砂やほこりがひどいので、私はやはり1日1度はシャワーを浴びたくります。

「どうしてシャワーを毎日浴びない



の」と聞くと、「節約用水」という答えが返ってきます。ある学生は「水はあるけど、人も多いから1人が使える水は多くない」と言いました。水を大切にとか、節約しようなんてことを大きな声でいわなくても、中国人の伝統的な生活の中では「節水」が当たり前の習慣になっているんだと思います。

そんな水を使わない中国の生活のスタイルも都市部を中心に少しずつ変化してきているようです。このあたりの2つ星以上のホテルでは24時間シャワーが使えるところが増えてきているし、公共のトイレも個室の水洗が増えていきます。人びとが持っている衣服も増え、全自動洗濯機を持っている家庭が多くなったと聞きました。日本の生活に近づいている。というのは、知らない間に水を使う生活に変わっていくことなんだなと感じます。

### 本の紹介

『21世紀子ども百科 地球環境館』  
小学館 / 3,800円（税別） / 6月25日  
発売予定

大人にも、見ごたえ・読みごたえのある環境の本。売り上げの一部を、GENに寄付していただきます。

『中国の環境保護とその歴史』  
袁清林著・久保卓哉訳 / 研文出版 /  
5,500円（税別）

広い国土、長い歴史をもつ中国の環境の変遷を、環境破壊と環境保護、また、思想、法律などいろいろな面から論じた力作です。

『乾燥地の自然と緑化 - 砂漠化地域の生態系修復に向けて - 』

吉川賢・山中典和・大手信人編著 / 共  
立出版 / 3,800円（税別）

乾燥地と乾燥地緑化について、NGOの研修から大学の講義、研究にも使えるようにまとめられています。

『大和川水紀行 流域から水を考える』  
藤岡正著 / 遊絲社 / 1,500円（税別）

汚染のひどい大和川ですが、飛鳥をその流域にかかえ、古代から人間とともにありました。その大和川流域の伝統と現在から、地域の水を考えます。

### ご寄付・助成

三菱地所（株）  
20万円のご寄付をいただきました。  
日本経団連自然保護基金

300万円の助成が決まりました。積水化学工業（株）から積極的なご支援をいただいています。

（財）日立環境財団

「環境NPO助成」として90万円の助成をいただきました。

（財）サントリー文化財団

『ぼくらの村にアンズが実った』中国語版翻訳出版に対して、海外出版助成45万円が決まりました。



昨年春以来1年ぶりのワーキングツアー（3/24～31、24名）。ツアーがストップしていたあいだも、豊丘自然植物園では山に作業道がつくられ、環境林センターでは污水处理施設の運転がはじまりました。そうしたGENの活動状況や、村の人たちとの交流、深刻な水問題など、たくさんのこのを見聞きし、体験してきたツアー参加者の日誌から、一部をご紹介します。

また、GENのツアーのほかに、OFS（オリエンタルランド労働組合・4/6～12、23名）、イオン労働組合（4/8～13、15名）、東北電力総連（4/14～21、16名）の3つのワーキングツアーが大同を訪問。さらに、中華全国総工会、日中水フォーラムユースの訪問など、大同はにぎやかでいそがしい春となりました。OFSとイオン労組のツアー参加者に、感想をよせていただきました。

【3月25日（木）】

●市街地を出てしばらくは、道路の両側に延々とポプラ並木がつづく。そしてその並木の外側約50mの幅で、新たにポプラの緑地帯が造成されようとしている。道路脇にたてられた標識によると、その名もずばり「緑化公路」。この地域の緑化熱の高さを垣間見る光景であった。しかし、間もなくして一転、小老樹の林が路傍に無残な姿をさらす。整然と植え付けられたポプラの若木と小老樹。造林工程の開始と顛末を見せつけるような車窓の展開に、同じことの繰り返しではないかという疑念が頭をはなれない。（町田良太）

●昼食を招待所でとり、北泉水村へ。高見さんの話によると、深刻な水不足が起きており、桑干河の流れも年々減り、また北泉水村の泉も3年前に涸れてしまったそうです。そして、村の人びとは、昔水をあげていた村から、今度もらひ水をしているそうです。しかしながら、ただ井戸を掘ってあげれば良いというわけではなく、井戸を掘れば、人はそこに住みつけ、放牧や柴刈りのために森林が戻らなくなる、しかし、生きるためには水が必要であり、理屈ぬきに掘ってあげたいという気持ち。このあいだでいつも板ばさみになっているそうです。他にも、村同士の間関係など、本当にいろんな問



上北泉村では獅子舞がでむかえてくれた

題があふれていました。（細川しのぶ）

【3月26日（金）】

●上北泉村に着いたら、とてもない歓迎をされた。小さな子どもたちが赤い布をふって村までの道を囲み、タイコやシンバルで音楽を演奏して、若い女性らが舞っていて、シマイもいました。私はうれしすぎて涙が出そうになった……。中国の農村の人の顔はとても皆特徴的でおもしろい顔をしている。特に子どもは本当にいい顔、いい笑顔をしていて、こっぴどつられて笑顔になってしまうほど。（岩本早織）

【3月27日（土）】

●さて、希望果樹園に登り、村の人たちと協同でアンズの苗を植えはじめた。リーダーの説明どおりに事が運んだのは穴掘りまで。その後の水やり、苗の植え方（風向きに対しての方向）のころになると村の人たちのやり方がでんでんばらばらになりだし、どうしていいかわからなくなりだし。ぼう然としながら疲れた体を休めているうちにむなしさを覚え、遠田先生に訴える。遠田先生いわく「現地は現地流でやるべし、成果を急ぐな」とのこと。長年の体験からでた貴重な言葉と納得する。

（稲葉忠次）

【3月28日（日）】

●“カササギの森”にたずさわると、村の人びとの日々の過酷さは環境・土壌条件を見れば容易に想像がつくが、それよりも私がおどろき、感銘をうけたのが森のスタッフたちの心意気である。山に木を植えても1年2年では結果は得られない。成長しき

るには品種にもよるが最低でも

# 2004 春のワーキングツアー報告

## 緑化熱高まる大同で見たこと、体験したこと、考えたこと



傾斜地の小学校付風果樹園にアンズを植える

7～8年はかかるだろう。その間にも虫等の被害、天災、人災、様々な問題が森の開発をさまたげるだろう。それは、つまり、現在のスタッフたちの多くは森の開発の成功を見ることなく人生を終えることを意味する。しかし、それは次世代のため、地域環境のため、長い時間を要する森づくりの礎となる覚悟をもつ人びとにとっては、たとえ遠い未来の成功を見届けることができなくても本望な生き方なのかもしれない。

我々が生活する日本からは考えられないほど、広大な中国。私にはまだ、中国文化を理解し、国民性を知ることまではできていないが、中国人のその時間の使い方にも国土と同じ広大さが見えたような1日だった。（田中一彦）

【3月29日（月）】

●私は、ここに来るまでは、戦争のことが気になって中国人と自分との間に距離をおいていた気がする。そんな自分を変えてくれたのは、上北泉の人びとのふれあい、自分が中国人に対して壁を作っていたのがかもしれないと気づいた。精いっぱい歓迎してくれる彼らに対して変に勘ぐって、最初とまどってしまった私に、ホームステイの家族の人や子どもたちが気軽に声をかけてきてくれて、心から嬉しいと思える

ようになったとき、自分の中国人への壁は崩れた気がした。（岡崎由紀子）

【3月31日（水）】

●「NGOの時代」とよくいわれているが、正直、出発前まで私はあまり信用していなかった。

### 樹々が大きく育つことを願って……

#### 石井 美和 〈OFSエグゼクティブ（中央執行委員）〉

『第5回 自己啓発 中国黄土高原ワーキングツアー』も第4回目である昨年は中止としたため、ツアー事務局として準備を続けていた私は、「やっと思いで出発しました。過去の参加者から聞いていただけの想像の世界であったこの土地も、実際に乾いた空気を肌で感じ、360度茶色の土地を目の当たりにして、すぐに厳しい環境であることが理解できました。

ボランティアに興味があるから、中国に行ってみようと思ったから、視野を広げてみたかったから等、「自己啓発」

### 中国緑化ツアーに参加して感じたこと

#### 山内 明 〈(株)イオンビスティー〉

私は中国の歴史、文化に興味を持ち、現地の生活を肌で体験したいと思っていましたが、木を植えて中国の国土を緑化しようとは思っていませんでした。しかし実際に中国の奥地に行ってみると、日本の30～50年くらい前の生活を送っているのが現実でした。黄土高原は、昔は青々とした大地が広がって生活も豊かで、文明が栄えたと聞いています。しかし実際にこの地に立つと、栄華の後がうかがえません。

多くの人が北京を見て中国に援助は必要ないと考えがちですが、北京の華やかで空気は反対に、地方の生活を体験すると、これがニュース等で報道していた貧富の差なんだと思いました。だからこそ、民間でできる活動が必要と考えます。

実際に地元の子どもたちと一緒に木を植えていると、彼らの純真さと熱心

さで好奇心が伝わってきます。OFSとイオン労組のツアーは、日程が重なっていたあいだ行動をともにした。写真は大同県興業樂采涼山

と題しているOFSのツアーには、様々な動機を持った23名が参加をしました。参加の動機は違えども、この土地が豊かになることを望む気持ちはすぐにひとつになり、天候にも恵まれた7日間は、あっという間に過ぎていきました。しかし、天候にも恵まれ……と思っていたのは、私たちがだけなのではなく、勢よくおしいように水を吸い込んでいく土地を思い出すと、大喜びしていたことを反省しています。

今回のツアーの団長が、「参

さで好奇心が伝わってきます。OFSとイオン労組のツアーは、日程が重なっていたあいだ行動をともにした。写真は大同県興業樂采涼山

となり、彼らに受け入れられて初めて達成すると感じました。子どもたちが笑顔の向こうに中国の将来を担っていると思うと、来てよかったとつくづく思いました。黄土高原で植樹した木々が大きく成長しているのを見ると、小さな行動が年月を隔てると大きな成果になると確信し、この子どもたちの時代が到来したらどんな黄土高原になっているのだろうかと思えるだけで、ボランティア活動を続けよう、黄土高原のい子どもたちの成長を見届けようという夢と希望がわいてきます。

一方、中国の経済行動の変化は早いものです。以前の通勤スタイルは自転車でしたが、今はマイカー通勤と思われるくらい北京市内は大渋滞でした。それだけの力を中国は持っているの

市民レベルで理解してもらおう。国家間の外交努力も必要。しかし、市民間の中身のともなった交流も必要。車の両輪である。（安東義隆）

加しようと思ったことで、すでに皆の心の中には、樹が植えられているんだ。」と参加者へ送った言葉があります。私たちの「心の樹」も、そして私たちの手で植えられた「本当の樹」も少しづつでも良いから大きく育てていくことを、ツアーが終了した今も参加者一同、思い続けています。



写真は大同県興業樂采涼山

す。このツアーで学んだことは、人のためになることをする大切さと、持続性のある活動をするということです。子どもたちは、純真です。大人は、彼らの希望を壊すのではなく、夢を与えなければならないと思いました。

### 使用済みカード・古切手回収ご協力ありがとうございます

従来の使用済みテレカにくわえて、各種交通カード等、テレカ以外のカードや古切手の回収をはじめたところです。早急たくさんのご協力をいただいています。これからますますお願いいたします。回収内容についての詳細は会報96号をご覧ください。

黄土高原史話〈19〉

## 顔が長かったばかりに

谷口 義介 (摂南大学教授)

馬の顔が長いのは、目と口が離れていることにより、草を食べながらも危険に対し注意が向けられるから。その結果、切歯と臼歯の間に10センチほどの隙間ができた(図)。それを利用して人間は、棒つまり銜(図)を噛ませ、その両端の輪に手綱をつけて操り、騎乗できるようになったわけ。B.C.4000年ごろのウクライナ、と推定されています。

B.C.3000年ごろ同じあたりで騎馬遊牧が成立、B.C.1000年ごろ騎馬の風習は西アジア一帯に広がり、軍事にも利用。遊牧騎馬民族として有名なスキタイの文化は、前8世紀ごろモンゴル北部に起源する、とも。陰山山脈あたりまで南下してきたのが、前4世紀ごろより文献に見える匈奴。

殷・周時代、つまり<18>で述べたごとく二頭～四頭立ての馬車が戦場の花形だったころ、華北の周辺に騎馬軍団の影はまだありません。

戦車に代わって騎兵が戦いの主役に

なるのは、春秋時代をとおこし、戦国時代に至ってから。

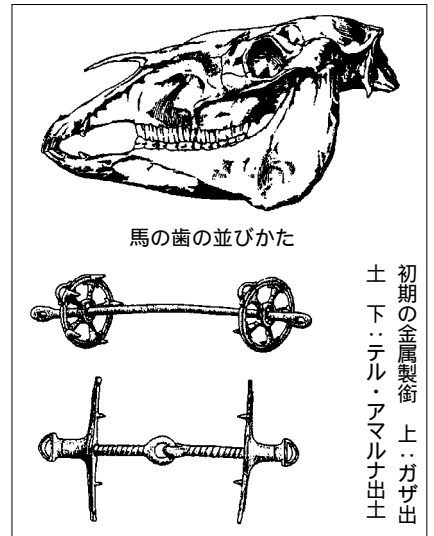
趙の武靈王(在位B.C.325-298)による「胡服騎射」の採用です。

趙は戦国七雄の一で、晋を三分して、山西省の中～北部を領有。周囲の列強と抗争を繰り返したほか、オールドス東部の林胡やモンゴル東部の東胡との戦いも強いられました。そうした経験から、敵の騎馬戦術の有効性を知り、武靈王は導入を決意。ただし、単なる乗馬ならそれ以前からあった、という史料も散見します。

「いま吾まさに胡服し騎射して百姓(民)に教へん。」(『史記』趙世家)

ここでいう「胡服」とは騎馬遊牧民の服装。全体が上衣とズボンのツーピースに分かれ、左前の裾で、袖やズボンは四肢に合った細身のつくり、腰にベルト、はくのはブーツ。中国でブーツに当たる靴(カ)は胡人がはいていた鞞(カ)から来ている由。

「騎射」とは、騎馬したまま駆けつ



つ弓矢で射ること。戦車のような地形上の制約を受けず、山谷にも出没し、何よりも機動力が勝っています。

馬は現代のモンゴル馬に似て、体格はずんぐり。

春秋時代、晋の強勢の一理由に馬が挙げられていますが、武靈王より数代前、趙が良馬の産地の代、つまり今の大同市一帯を領有したことも重要。豊かな草原に恵まれていたのでしょう。その東南部の霊丘県は武靈王の名に因み、県城内には王の陵墓とされる円墳も。

## 関東ブランチ例会報告 地球温暖化の監視と予測について

高橋 一太 (GEN関東ブランチ例会担当)

3月は国交省・気象庁の出席講座を依頼し、3月13日、気候情報課の石原幸司係長を招いて例会を開催しました。

テーマは「地球温暖化の監視と予測について」、特に中国大陸の沙漠化と温暖化の影響についても言及をお願いしました。その概要を報告します。

・温暖化をもたらす温室効果ガスのうち、CO<sub>2</sub>の影響度が約60%と最大。特に北半球でCO<sub>2</sub>濃度が増加している。

・世界の気温変化；1880～2003年の100年余で平均0.7 / 100年の比率で上昇。ただし1976年頃から急激に上昇し、25年間で0.4 程度上がっている。これは過去1000年のデータを見ても異常である。

・全世界の降水量の経年変化は認められないが、地域別には変化がある。中

国の夏季の降雨量は長江流域で増加、黄河流域で減少している。温暖化で太平洋高気圧が活発になり、その前線にあたる日本、長江流域などでは降水量増が予想され、逆にその周辺の黄土高原地帯では雨量が減るとのこと。

また全世界的に異常多雨(大雨)の頻度が増加している。

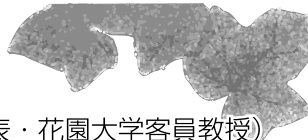
・日本の平均気温はここ100年で約1 の上昇。'86年以降の上昇が顕著で、比率はもっと高い。冬が暖かくなり、熱帯夜も増えた。異常高温は日本でも、世界的にも増加している。

・世界の平均気温は1990年から2100年までに1.4～5.8 上昇すると予想される。今後100年で日本、中国などで2～3 、北極で10 程度、年平均気温が上昇するというモデル計算もある。

事前の希望に応じて名大・安成哲三教授の論文「東アジアにおける近年の水循環と気候の変動について」をいただきました。本論文でも、長江流域の降水量増加と黄土高原・黄河流域での乾燥化傾向が論ぜられ、また、実測・計算上から長江流域ではモンスーンによって熱帯洋上からもたらされる水蒸気が降水の主原因であるのに対し、黄土高原などでは降水はほとんど地表面からの蒸発散によるとされています。

安成先生に電話で詳しくうかがったところ、先生のモンゴル、アラスカなどでの経験等から、植生のあるところは必ず雨が降る、雨と植生は共存するものであること、またシミュレーション計算でも、アジアモンスーンによって西から入る雨雲は陸地が沙漠であると降雨にならない、したがって長江流域にはモンスーンによる降水があるが、黄土高原あたりはその(次頁につづく)

# 植物を育てる (28)



立花 吉茂 (GEN代表・花園大学客員教授)

### 樹木の種子発芽特性

緑化のスタートは苗の育成から始まる。苗の育成は種子をまくことから始まる。野生の植物の種子は簡単には生えない。それは生き残り作戦で、一度には生えず、少しずつしか生えてこない。日本の樹木は種類が多く、その特性はまだよくわかっていないものが多い。今回は各種の発芽実験や植物園での育苗の実際などのデータからおもな樹木の種子発芽特性をまとめてみよう。

- 一斉発芽型 ..... 栽培植物
- ダラダラ発芽型 ..... 野生植物

### ダラダラ発芽型の原因

- 「硬実種子」不透水性によるもの
- 「休眠種子」胚が成熟していても一定期間休眠するもの
- 「硬実・休眠種子」両方の性質をもつもの
- 「後熟種子」胚が未成熟のもの

このような発芽の多様性は  
1) 安定した森林の環境条件(光、温度、湿度)に育つ基本樹種

2) 不安定な環境(明、乾燥)に出てくるパイオニア樹種の環境条件の差によって現れると考えられる。前者はシイ、カシ、ツバキ、クリなどの**ドングリ型**。クスノキ科、モチノキ科などの**液果型**。ニレ科、マメ科、カエデ科などの**乾果型**に分けられ、ドングリ型と液果型は乾くと死んでしまう種類が多い(表1)。また、水辺などの特殊な環境に生える植物、たとえばヤナギなどのようにきわめて短命な種子(1か月)もある。

表1. 基本樹種の短期発芽型

	当年			2年目		
	春	夏	秋	春	夏	秋
1. タブノキ			●	×		
2. バリバリノキ			●	×		
3. ウバメガシ			●	●	×	
4. ツブラジイ			●	●	×	
5. スダジイ			●	●	×	
6. イタジイ			●	●	×	
7. ヒイラギ			●	●	×	

種子成熟期 ○ 一部発芽 ● 大部分発芽 × 発芽能力消失期

表3. パイオニア・グループの種子発芽型

	当年			2年目			3年目			4年目		
	春	夏	秋	春	夏	秋	春	夏	秋	春	夏	秋
1. ナワシログミ			●			×						
2. ヤツデ			●			×						
3. ケショウヤナギ			●			×						
4. ヤマナラシ			●			×						
5. ドロノキ			●			×						
6. パッコヤナギ			●			×						
7. ユリヤナギ			●			×						
8. オノエヤナギ			●			×						
9. オヒョウ			○			●			×			
10. ハルニレ			○			●			×			
11. クサギ						●			×			
12. ハマクサギ						●			×			
13. ハンノキ						●			×			
14. ヤシャブシ						●			×			
15. カワラハンノキ						●			×			
16. ヤマハンノキ						●			×			
17. ダケカンバ						●			×			
18. アオギリ						●			×			
19. キリ						●			×			
20. サルスベリ						●			×			
21. ハマボウ						○			●			×
22. フヨウ						○			●			×
23. オオハマボウ						○			●			×
24. センダン						○			●			×
25. アカメガシワ						○			●			×
26. ヌルデ						○			●			×
27. ハゼノキ						○			●			×
28. ヤマハゼ						○			●			×
29. ウルシ						○			●			×
30. ゴンズイ						○			●			×
31. タラノキ						○			●			×
32. キササゲ						○			●			×
33. ネムノキ						○			○			?
34. ジャケツイバラ						○			○			?
35. ヤマフジ						○			○			?
36. キハギ						○			○			?
37. ニセアカシア						○			○			?
38. イヌエンジュ						○			○			?
39. ニシキギ						○			○			●
40. コマユミ						○			○			●
41. マユミ						○			○			●
42. ツリバナ									○			?
43. オオツリバナ									○			?
44. ヒゼンマユミ									○			?

表2. 基本樹種の長期発芽型

	当年			2年目			3年目			4年目		
	春	夏	秋	春	夏	秋	春	夏	秋	春	夏	秋
1. ウメモドキ				○			●		×			
2. フリンウメモドキ				○			●		×			
3. ツゲモチ				○			●		×			
4. タマミズキ				○			●		×			
5. シイモチ							○		×			
6. ナナメノキ							○		×			
7. モチノキ							○		×			
8. タラヨウ							○		×			
9. アオハダ							○		×			
10. クロガネモチ							○		×			
11. ソヨゴ							○			○		×
12. アカミノイヌツゲ							○			○		×

(前頁からつづく) クリティカルな地域になる。故に黄土流域に緑が復活すれば気候が改善される可能性はある、とのことでした。沙漠化防止の意義を再確認した思いでした。

なお、石原氏の講演資料と安成先生の論文は、関東ランチにいたいで

あります。また温暖化予測等については、気象庁のHPから見ることもできます。ご参照ください。



ひとがつながるまちづくり  
交流のつどい

～かわり・つながり・ひろがり～

日時：5月29日（土）13時30分～17時

場所：大阪市立難波市民学習センター（JR「難波」駅、地下鉄「なんば」駅）

内容

第1部 シンポジウム

【ひとがつながるまちづくり】

第2部 交流会

「地域の福祉力」 「地域の交流」

「地域の子育て」

参加費：無料（要事前申込み）

問合せ：（財）大阪府人権協会（〒556-0028 大阪市浪速区久保吉1-6-12 TEL. 06-6568-2983 FAX. 06-6568-2985 e-mail : k-hatu-bu@jinken-osaka.jp）

\*当欄掲載のイベント情報は掲載時点のもので、その後変更になる可能性があります。主催者にお確かめのうえ、ご参加ください。

\*当欄に情報をお寄せください。本紙は奇数月15日ごろの発行で、締切は前月の末です。なお、紙面の都合により掲載できない場合があります。ご了承ください。

申込みは上記まで、はがき、FAX、eメールで「まちづくりのつどい申込」と書いて参加者全員の住所、氏名、電話番号、希望する交流会名（当日変更可）を明記して申し込んでください。先着120名に参加整理券を送付します。

土佐小夏をどうぞ  
たまねぎもあります

小夏（低農薬、有機肥料のみ使用）

L・M混	5kg	4,000円
S	"	3,800円

出荷中。6月初旬まで

たまねぎ（無農薬、有機肥料のみ使用。辛みが少なく、サラダ向き）

レッドオニオン	5kg	2,500円
白たまねぎ	"	1,800円

出荷 5月中旬より

送料別途。関西630円、関東840円（20kgまで）

お申し込みは田中隆一さんまで。

〒781-7412 高知県安芸郡東洋町甲浦  
TEL/FAX. 0887-29-2500

売上の一部をご寄付いただいているので、ご注文の際、「GENの紹介」とひとこと添えてください。

編集後記

善かれ悪しかれ、メディアの力を思い知らされた「イラク人被拘束者虐待」報道です。アムネスティや国際赤十字は以前から問題を指摘し、改善するように訴えていたのに、アメリカのテレビが数枚の写真を報道するまで米英は動きませんでした。虐待に関する報道も以前からありましたが、「動かぬ証拠」ともなってはじめて力をもったようです。いろいろあったようですが、米メディアもジャーナリストの意地をみせたというところかな。今後の監視を忘れてはならないでしょう。（東川）